



望洋荘便り



第 64 号
平成 21 年
3 月 発行

絵本の魅力

社会福祉法人りんさく福祉会

理事長 須田 隼

子供はお話が好きです。絵本は特に大好きです。幼年期の子供は、大変な勢いで成長して行くものです。子供は絵本を読んでもらいながら、いつしんに絵を見えています。優れた絵本は、洗練された美しい日本語によって綴られています。子供は、未知の美しい日本語を、親の声で読まれる物語の楽しさに載せて、身に着けていくのです。絵本を読んでもらっている子供の言葉の発達が早く、表現も豊かなのはそのためなのでしょう。

言葉は、考えや、思いや、学んだものを、伝え合うための手段です。言葉が豊かになることは、考えや思いが豊かになることでもあります。それは、人が人らしく生き、社会の中で人との関わりをもつて暮らしていく上で、大切な事なのです。これほど大切な言葉の力は、乳幼児期の、親から子への語りかけや、絵本を読み聴かせるという、温かく、人間的なふれ合いをおして、より豊かに得られていくのです。

親と子であれ大人同士であっても、言葉をとおして心の世界を共有できたと感じられるとき、人と人は深く結びつくのでしょう。このようにして、言葉をとおして、たましいの奥深くへ届く愛を存分に受けて育った子供は、自分自身を愛し、自分と同じように他の人を愛し、尊重することができます。そうやって、人への愛と信頼を身につけて行くのでしょうか。

「望洋荘」に住んでいる多くの方々は、祖父母の立場になっていきます。子供のときに受けた絵本の思い出を、わが子にも引継ぎながら、今はお孫さんへの愛情をどう表現したらよいものか悩んでいる時期でしょう。更に、祖父母ゆえの役割が数多くある中で、絵本が案外と孫との心の架け橋になるのではないのでしょうか。人生をより長く生きて、その光と影に出会ってきた人が知る、人生の不思議さと喜び、人間の心の善と悪、知恵、経験……。それらを、あとに続く世代へ伝えていくこと、そうすることで、子供らが人間的に心豊かに生きていけるよう、手助けをしてきたのです。

子供は、自分の心に深い印象を残した絵本・本を決して粗末にすることはありません。それは、祖父母からの愛情の証として、いつまでも、わが子やお孫さんの心に残り続けることでしょう。職員たちも、時には一緒になって絵本や本を読んでもらったり、読んであげたりして若き日の記憶の引き出しの手助けにして上げて下さい。

参考図書…「絵本のある子育て」一二号 二〇〇五年

「家族交流会」 永崎ユニット

三月八日（日）午後二時より、永崎ユニットにて家族交流会を開催致しました。交流会には、多くのご家族様にも参加いただき、入居者様の表情もいつもとはまた違う笑顔が見られて良かったと思えました。交流会では「おやつバイキング」を行い、ケーキや饅頭、ホットケーキがテーブルにならび、皆様たくさん食べられました。なかには少し食べ過ぎかなと思われる方も…。その後には、みんなでスライドショーを観賞したり、ハンドマッサージを行い親子のスキンシップを図ったりと、楽しい時間を過ごすことが出来ました。ご家族のみなさまご協力有難うございました。

「ひなまつり」ももの節句

三月三日から六日までに、各ユニットにてひな祭りを行いました。ひな祭りは、各ユニットそれぞれ工夫をしながら、カラオケをしたり、白酒と雛あられでお茶会をしたり、三月生れの入居者様のお誕生会を兼ねて行ったり、入居者の状況に合わせて楽しく行いました。雛飾りも正面玄関前、各ユニット、多目的ホールに飾られ、何時でも何処でも楽しめました。



「落語の豆知識」①

これまでに望洋荘だよりでは、噺家さんの個性あふれた「色紙」や「年賀状」を紹介させて頂きましたが、今回は、落語の豆知識をご紹介します。

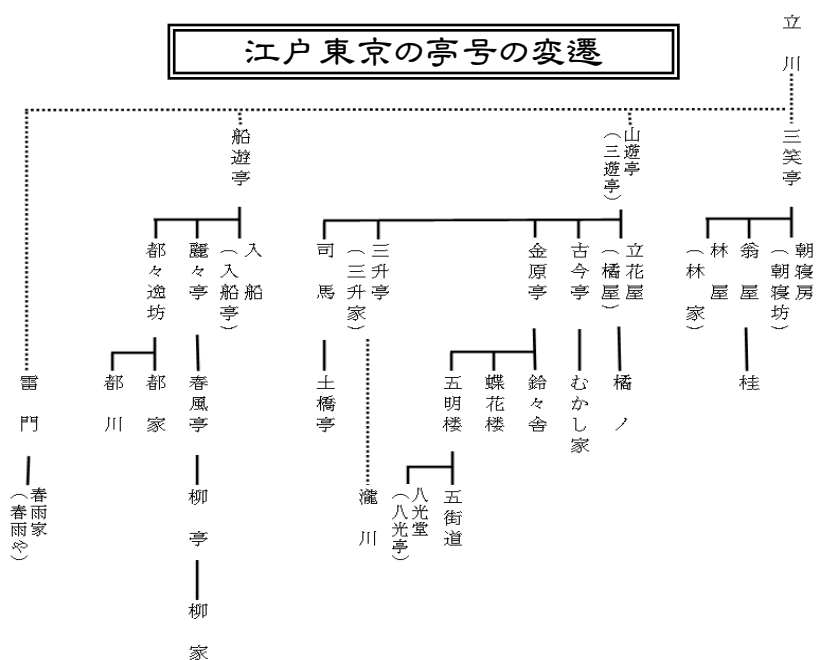
落語の歴史は、約四百年前の江戸時代中期と言われています。江戸落語中興の祖である立川馬場をはじめ、三笑亭、山遊亭（三遊亭）等の亭号がありました。この頃の落語は芸自体が未熟で、未完成でありました。幕末から洗練され現代へと引継がれて来ました。

落語家さんの階級についてですが、落語家さんの階級には「前座」「二ツ目」「真打」の三階級に分れています。その他「前座」の前に「見習い」があります。見習いは師匠の家に泊まりこみ、師匠やおかみさんの身の回りのお手伝い、先輩方の雑用などをしながら、落語界での仕来りなどを学んでいきます。この期間は、前座さんの数にもよりますが、最低でも半年つとめ、「前座」となります。前座の主な仕事は、華やかな寄席の裏方役であり、毎日会場に一番に入り、寄席の準備と進行、楽屋で師匠のお世話などとなります。また、師匠の前座として高座に上がり、噺をすることが出来ます。ただし前座が出来る噺は登場人物も少ないシンプルなものとなっています。この修行を三年から五年つとめ、晴れて「二ツ目」に昇進します。二ツ目から落語家として認められ、羽織を着ることができ、自分の出囃子を持てる、そして名刺代わりの「手ぬぐい」を作る事が許されます。

す。二ツ目で修行を積み（五年から十年以上）、実力・人気を上げて、協会の理事会の承認をえて、最高位の「真打」へ昇進されます。真打になりますと、師匠として弟子を持つことや、寄席で「トリ」を勤める事が出来ます。また真打昇進後も、江戸時代から続く名跡や、名人が名乗った名前や、師匠の名前など、少しでもいい名前を継ぐ為に、精進努力を重ねています。

落語家さんの名前で〇〇亭や〇〇家などがありますが、これを亭号と言います。その亭号の歴史を左図にて紹介致します。

江戸東京の亭号の変遷



「噺家の粋な手ぬぐい紹介」①

冒頭でお話しさせて頂きました。二ツ目から名刺代わりに自分の「手ぬぐい」を作ることが出来ます。噺家にとつて手ぬぐいは、ごひいきのお客さんに挨拶代わりに配ったり、噺の中で、煙草入れや財布、手紙、本…など様々な物に変化し、お客様を楽しませる小道具でもあります。その為、噺家さんはそれぞれ個性豊かな「手ぬぐい」を作っています。今回より、「いわき寄席」出演者の粋な「手ぬぐい」をご紹介します。

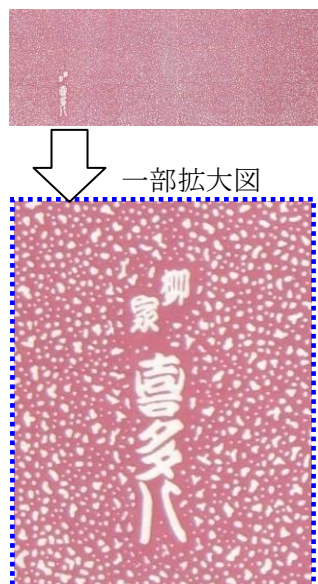
柳家 一九師匠の「手ぬぐい」です。

○第七三回いわき寄席 平成十四年三月七日



柳家 喜多八師匠の「手ぬぐい」です。

○第二七回いわき寄席 平成六年二月二十一日
他 第四九回・第六七回・第一〇二回 計四回出演



介護保険改正のご案内

望洋荘便り二月号で掲載致しました「介護保険改正」により、四月から利用料金が左記の通り一部変更となります。

介護サービス費（利用者負担金）

要介護度1	一日＝六三九円→六五一円
要介護度2	一日＝七一〇円→七二二円
要介護度3	一日＝七八〇円→七九二円
要介護度4	一日＝八五一円→八六三円
要介護度5	一日＝九二二円→九三三円
それぞれ一日十二円上がります。	

各種加算（利用者負担金）

個別機能訓練加算	一日＝一二円	変更なし
準ユニットケア加算	一日＝五円	変更なし
栄養マネジメント	一日＝一二円→一四円	
看護体制加算（一）	一日＝四円	新設
看護体制加算（二）	一日＝八円	新設
夜間職員配置加算	一日＝一三円	新設
サービス提供体制加算	一日＝六円	新設
廃止加算（利用者負担金）		

管理栄養士配置加算	一日＝一二円	廃止
重度化体制加算	一日＝一〇円	廃止

四月の利用料金より、介護サービス費の一日一二円と各種加算にて変更されたもの、新設されたものから廃止されたものを差引いた一日二三円が増え、月三〇日換算しますと六九〇円のご負担が増えることとなります。また、ケースによつては、ご負担に変動が生じる場合がございます。

入居者様の専用電化製品持込について

現在、入居者様の居室に専用の電化製品を持込まれ使用された場合、電化製品毎に一日あたり、百円から二百円の電気料金をご負担いただいておりますが、四月一日より、ご負担いただく料金を左記のとおりに変更いたします。

四月一日から

テレビ（二十一型上限）

一ヶ月 五六〇円

冷蔵庫（76リッター上限）

一ヶ月 九一〇円

電気毛布

一ヶ月 八四〇円

電気あんか

一ヶ月 八四〇円

※この他の電化製品の持込は極力ご遠慮くださいます様、お願い致します。

※現行では一日あたりの料金でしたが、四月一日より月額料金となります。月の途中からの使用であっても月額料金となりますので持込の際には、ご注意ください。

※新たに電化製を持込まれる時や、現在使用している電化製品を持ち帰る時は、専用の申請用紙がございいますので、ユニット職員もしくは、受付までお申下さい。

四月の行事予定

四月七～十四日 豊間ユニット

「お花見」※開花状況・天候により変更あり

四月十九日（日）午後一時～多目的ホール

「家族会総会」

四月二十二日（水）午前二〇時～ 勿来ユニット

「アクアマリンふくしま」見学

【四月のお誕生会予定】

四月八日（水）

薄磯 鈴木 シメ様 （九四歳）誕生会

四月十四日（火）

四倉 喜多 トミ様 （八三歳）誕生会

四月十五日（水）

永崎 肥後 せき様 （九三歳）誕生会

四月十九日（日）

薄磯 吉田 京子様 （六九歳）誕生会

四月二〇日（月）

勿来 深谷 芳子様 （七七歳）誕生会

編集後記

『望洋荘』便り

平成二十一年三月三十一日発行

発行所 いわき市

社会福祉法人 平豊間字合磯三十九番地

介護老人福祉施設 望洋荘

電話 (0246) 55-7373

FAX (0246) 55-7255